「かんばろう日本！」国民協議会　機関紙　「一灯照隅」寄稿

区議はつらいよ―アラフィフ一期生の奮闘記

いそだ　久美子

　原稿依頼は忘れたころにやってくる。待ち合せたガラス張りのカフェの明るい窓際で、いつもの笑顔の瀬尾さんが、「次の一灯照隅の原稿をお願いします。この４年間を振り返って、自分の政策がどれくらい実現できたかを含めて…」と言うのでした。
自分の政策実現か。何を書いただろうか？
自分の政策をおさらいする前に、2019 年５月に初めて区議会議員として働き始めた頃を思い出してみました。

〇最初の一年は
私たちの世田谷立憲民主党区議団は当初は８名（途中１名都議へ）、うち女性が４名。自分は２新人のうちの一人だが、年齢は上から数えた方が早い逆転現象。第５区総支部長・手塚よしお議員の秘書だったこともあり、見知った顔ぶれです。企業の総合職を辞めてから８年、短期の秘書仕事などでつなぎながら三度目の挑戦で当選できたので、党の集まりなどで初挑戦当選組の議員らを見ると（新人はフレッシュでいいわねー）などと思ったりしました。
会派では、連絡事項や互いが出た委員会の報告、スケジュール調整などで月に数回「会派総会」があります。自分が任命された役割はまずこの書記。最初は区議会特有の用語に何度もつまずきました。企総（キソウ＝企画総務）を起草と思ったり、交渉会派を“公称”と書いたり、今はあの頃の自分を笑えます。
会派は所属人数が多い方が発言時間も長く割り振られる。その一方で、人が多ければ議案賛否など意見をまとめるのに骨を折る。全議員がばらばらなことを言っていては議会がまとまらないので、会派という制度は理にかなっていると思いますが、“これだけは譲れない”主張を持っている議員同士が 100％意見一致するほうが稀です。何度かぶつかり合い、すわ会派分裂か?! と思って、なんとか同じ船から降りずに４年間も終盤に至っています。

〇４年間で取り上げたテーマ
最初の総会で取り決めたのが、どの委員会に所属するか。先輩議員から「いそださんは働く女性の支援や、産業活性化をやりたいなら区民生活だ」と言われ、区民生活常任委員会へ。（なんだかアバウトな名称だな）と思って入ったら、それ以外にも文化芸術・イベント関連（時には招待券も！）、環境対策など好きなテーマが一杯で、充実したスタートを切ることが出来ました。
もう１つの特別委員会は公共交通機関対策等特別委員会で、自宅が外環道建設予定地（トンネル部分）の真上にあり、自らも区分地権者、地域への正しい情報提供や補償規定について、住民の要望を伝える役割をしようと手を挙げたのですが、その他にも世田谷区は 23 区内３番目ともいわれる交通不便地域であり、バス運行の削減を補うデマンドバスやシェアサイクルの立ち上げなど、多くの課題があることがわかってきました。
４年間のうち後半２年は、会社員時代に医療事業を担当していたことから福祉保健委員会に所属し、特

別委員会は、オリ・パラが終わって人気がなかった感があるスポーツ・交流推進等特別委員会。
福祉保健はコロナ関連で課題が多く、委員会がなかなか終わらない、19時過ぎると議員たちも腹をくくって、かえって質問が活発に出たりする。「議員は選挙活動ばかり熱心で、当選したら仕事をしない」と揶揄されることもありますが、仕事大好きで24時間闘う人の集まりではないか、と思うことがしばしばあります。

我が会派では、一期生は毎回一般質問をすると決まっています。毎回3テーマがちょうどよい分量で、最初の質問は、PTA父から寄せられた「雨の日はバスが混雑して、駅に近いバス停で待つ人は通過されることが多い」問題でした。大学の先生でもある陳情者が、天候によっての乗り残し人数をカウントしていてくれたデータや、実際にバス会社を訪ねて聴取した「なぜバスの本数（乗車数）を増やせないか」を分析、バスの大型化を可能にする道路拡幅や、バスの遅延が逐次わかるバスロケーションシステムなどの提案をしました。
会社生活で学んだ通り、現状分析と他自治体（海外）との比較、ニーズ調査、提案・対案のプロセスは崩しません。議員の質問には個性が出ますが、自分は権利の主張、差別反対などより都市計画や産業振興、コロナ対策など課題解決型の方が性に合っているといえそうです。

１年目に手掛け今に続くのは「プラスチックごみ（＝使い捨て傘袋）削減のための、使い回し傘袋の導入」。これは民間の店舗ほか他の自治体で既に導入事例があり、提案してすぐ環境部門が作ってくれました。コロナ禍の影響で数施設の導入に留まるも、世田谷区で29万枚／年消費されている傘袋が１万７千枚削減され、更新中とのこと。新人ならではのアイデアと他議員にほめて頂きましたが、それ以上に、即時導入に踏み切った区の慧眼かと。

労働関係では、長く手掛けているのがシルバー人材センターの刷新。世田谷区では現在約3000人（うち女性2000人）が登録していますが、人口比で他区に比べると登録者数、特に女性が少ないという。シルバー人材センターの三大請負仕事といえば、駐輪場整備、草むしり、家事支援。誰でもできる軽作業を高齢者にあてがうのは、かつて経済成長に伴い祖父母→子→孫と高学歴化、頭脳労働にシフトした時代の名残でしょう。
今の登録者の若手の方は団塊の世代。パソコンで仕事をしてきた元勤め人が多く、事務仕事希望者が4割（全国調査）だというのに、いまだに事務仕事を開拓しようとしないシルバー人材センターの真意を聞きに飯田橋までお訪ねしましたが、現場から声をあげていかないと変わりそうにありません。まずはイメージ刷新のためにシルバー人材センターのイラストを、やなせたかしから「ハートカクテル」のわたせせいぞう氏に変えたいと思うのですが、賛同いただける方ともに呼びかけませんか？

<u>〇紙かデジタルか</u>
ここ数年、区議会にもタブレット端末が導入され全体の紙の量は減っていますが、画面上で通り過ぎる情報は長く記憶に留まらないと思うのは、私だけでしょうか。個人的にはタブレットを持ち歩くようになって、紙の資料だけの時より荷物の重量も増えました。深夜までのPCおよびスマホ作業は眼精疲労がひどく、就寝時に充電しなければならない携帯端末が増え続け（今４台）、健康や環境を蝕む遠因に

なっている気がしてなりません。今更だが節電を呼びかけ、何でもデジタル化ではなく、デジタル化を推進すべき分野とそうでない部分の使い分けを提案できるのも、二つの時代の間に立つ５０代の役割かなと思ったりします。

〇顔出し、お付き合い、SNS

「議員になったらとにかくあちこちの会合に顔を出すことだ」とよく言われます。地域のイベントに何回、夏祭りに何回顔を出したか、その活動を逐次に SNS アップして報告する――さて誰が見るのでしょうか。一昔前は、会合で久しぶりに会ったのに話をするより自分のスマホの SNS 更新に忙しい一部の人にやれやれと思ったものですが、最近自分も「そんなにスマホに向かっていないといけないのか」と年配者に注意を受けました。でもみんなやってる！発信していないと活動していないと思われる！…焦燥感が拭えません。花嫁が披露宴で料理を食すごとく、“誰も見ていないうちさっと済ませる”技を会得したいものです。

自分は SNS は得意分野ではない。ここ 10 年来やっているブログはアクセス数 1000 を超えたこともあり、細々と続けています。また会合で親しく話した方などに、お礼の手紙、葉書を書くことは会社員時代より増えました。最近のレターセットはお値打ちで美しいものがたくさんあり、インクの色も様々。コロナ禍の影響もあり手紙を書く人は増えているというし、教育の面でも、手紙を書く文化は繋いでいきたいものです。

〇区議で出来ること、出来ないこと

公開されている電話番号、メールには様々なご相談、要望が入ってくるものです。議員により内容が少しずつ違い、50 人議員がいるうち区民も相談する先を選んでいるなと感じます（全員に出す人ももちろんいますが）。私によく来るのは都市計画：道路、交通、河川整備、樹木剪定。児童生徒の学習関連（コロナ禍で行事や部活中止は困るとか、図書館のあり方、ITC 教育の問題点について）。

個人的な問題なら相談者だけに対応しますし、公にすべき論点であれば、陳情者におことわりの上、一般質問や決算・予算特別委員会で取り上げる。その際は過去に他の議員が同じテーマで取り上げていないか議事録検索、既に出されていたらその時の答弁を踏まえ、続編として取り上げるようにします。

当然のことながら、陳情者に満額回答が出来ないことが多々あります。議員の中には「陳情者は話を聴いてあげればほぼ満足する。寄り添って、よく話を聴いてあげることだ」という人がいますが、話を聴いてあげるだけだったら議員でなくてもできる、聞いたからには関係所管に伝え回答をもらい、ご希望に添えるよう、どういう対応をしたか陳情者に報告するまでが仕事。良いお返事とならなくても、お礼を言ってくれる方がほとんどです。

少し困っているのは、議員は裕福（？）と思われていること。お店など、お菓子や花、文房具はお付き合いがてら買えますが、ジュエリーや不動産は気軽には…。最近では、地域猫のご相談も多い。高齢者の多頭飼育崩壊の場合、保健所の担当課に連絡し、引き取ってくれる人を探す NPO に対応を頼む手配などをしますが、相談者からは「議員さん猫は好き？一匹二匹もらって」と、最初からその心づもりで連絡してきたのかなあと思うことも…（まだ飼っていません）

多頭飼育も宗教並みに財産を失い、家庭が崩壊するケースもある。困っている飼い主に「有償で引き取

る」という話も来るそうで、今後自治体が対応しなければならない課題の一つになると思われます。

〇自分の政策の原点に還って

最後になってしまいましたが、区議選に際し何を政策に書いたかを振り返ると、①世田谷区で働き方改革：正社員化や女性の子育て後の再就職支援、定年後の区内再就職　②保育園児だけでなく、小中高生世代の子育て支援（保護者、子ども両面）③災害対策と再エネなど電源確保　でした。災害支援は他にやっている議員が多く控えていますが、他はぶれずにやっておりまだ道半ばです。

さきの決算特別委員会では福祉保健の担当である学童保育の時間延長を取り上げました。これは自分が政治を志した原点のひとつ。保育園が 19 時 15 分までなのに、公立の学童保育が 18 時で終わっているのは、もはや 23 区で世田谷区だけになっています。定時が 18 時終了の会社が主流の今、子どもが小学校に上がると正社員を続けられない女性が出てきます。なぜこれが放置されているかと考えると、企業で正社員として働いた経験がある議員が少ないせいではないか…20 年間総合職として企業に在籍した身としては、働く人のための制度改革をミッションとして、引き続き取り組んでいきたいと思います。

（世田谷区議会議員）